

NT加賀2022(新春)で発生したコロナウィルス感染に関するレポート

2022/2/1 五味

はじめに

本ドキュメントはNT加賀2022(新春)のコロナウィルス感染に関して、事実関係と他のイベントに活かすため、参加者数名にヒアリングを行って情報を整理し、コロナウィルスの感染リスクがある中で今後イベントを運営を行う際に何に気をつけるべきかをまとめたものです。

これはより良いイベント運営を目指すためのものであり、NT加賀の中の人や参加者個人を攻撃・批判するものではありません。本ドキュメントを閲覧される方はそれを必ず了承してください。

感染者の状況

下記に感染者のイベント中及びその後感染した際の状況についてまとめる。

イベントへの移動中：

新幹線や特急の中でマスクを外して食事をとった。

イベント1日目：

マスクを外したタイミングは、15時頃アビオシティ内のマクドナルドで食事時と、ペットボトルのお茶で水分補給時にマスクを少し開ける程度だった。

宿泊時：

あいりすまでの移動時も一切マスクは外さなかった。到着後は夕食、お風呂以外は外してはなかった。

宴会会場に使われた部屋が就寝部屋だったが、お酒を一切飲まず、周りの人と喋るときもマスクはほとんど外すことはなかった。就寝時マスクを着用したが、起きたら外れていた。

イベント2日目：

昼飯はテイクアウトを人が来ていない時に机の後ろで食べた。それ以外にはマスクを外すシーンは無かった。

イベントからの帰還中：

新幹線や特急の中でマスクを外して食事をとった。

イベント5日後：

熱っぽさや倦怠感を感じ、抗原検査を行ったところ結果は陽性。PCR検査を行う。

イベント7日後～：

PCR検査で陽性が出る。症状は高熱だったが、解熱剤のおかげで微熱程度に落ち着く。重症化もしなかった。

その後：

後遺症もなく体調は概ね回復。

濃厚接触者の状況

感染者とイベントで共に行動していた数人が濃厚接触者となった。

そのうち1名が熱っぽさや倦怠感を感じたが、その人も含め、抗原検査の結果は全員陰性だった。

イベント中の感染対策

イベントはショッピングモールで開催され、入り口には消毒用アルコールが設置されている。非接触温度計はなかった。参加者は全員マスクを着用しており、椅子に座って説明する出展者にはアクリルボードが準備されていた。



アクリルボード(引用:https://twitter.com/HanDen_Motor/status/1482514279748497408)

宿泊での状況

宿泊施設の入り口には消毒用アルコールが設置され、非接触温度計によるチェックが行われた。

宿泊中は部屋は相部屋形式で、1部屋毎に4,5名が入っていた。食事に関してはバイキング形式で、食堂の各席にアクリルが設置され、各自一席ずつ開けて座るようにしていた。

宿泊時の宴会

宿泊施設では有志での宴会が行われた。(感染の懸念から参加しない宿泊者もいた)参加者は10名強でその際運営メンバーの2人も同席。その際SNS等で公言しない旨が出され、全員が了承した。

部屋は20畳くらいで、個々の間隔は1m程度。飲酒している人は大半の人が終始ノーマスク。入り口ドアと襖(部屋の戸)は開放されており、窓は途中から少し開けられた。途中で数人がきぐるみをノーマスクで入れ替わりながら着たり、泥酔者が現れて介抱されたりする事態が発生した。

宿泊者のその後

宿泊者の中で体調不良及び感染した方はいなかった模様。

保健所による判断

基本的に何もしないで良いと判断された。

感染場所に関する結論とリスクのあった行動とその対策

宴会を行った人の中での感染者がゼロだったことから、感染者は宴会が原因で感染したということは考えにくく、感染者がどこから感染したかは正確にはわからないと見られる。しかし、宿泊時特に宴会時においてリスクが高い行動があったことが見受けられる。

飲酒や飲み会そのものは否定しないし、私達も参加する可能性は十分ある。その場合、部屋を分けたり、極力マスクを付けるようにしたり、宴会前に感染予防を行うほうが良いと考える。宴会が始まった後、酒が入った状況から対策しようとしても現実的に難しいためである。

コロナ禍でイベントを開催する為にやるべきこと

デルタ株の流行の後より感染速度の早いオミクロン株が流行したり、未だにさまざまな株が変異・流行を続けている状況の中、感染者数が減ってきたから数カ月後も大丈夫、ということとはほぼないと考えます。

また、三密を防いだら誰も感染しないということもなく、行動によって感染リスクの高さが変わるだけであって、人と会っただけで感染リスクは発生することは改めて意識すべきだと思います。それを参加者が許容できない限りは、あらゆるイベント開催、さらに言えば人と会うという行動は難しいと考えます。

そのため、オンサイトのイベントにおいては、まだしばらくはコロナウィルス感染を想定した設計と、もし感染した場合に正しく処置を行う為の備えが必要と考えます。厚生労働省の情報といった一次情報を確認し、イベント当日までの状況に合わせて対策を柔軟に更新できるようにできると良いでしょう。

終わりに

NT加賀の中の人を始め、本件に関わったメンバーは体力的にも精神的にも疲弊したそうです。リスクのある行動は確かにあったものの、基本的な感染対策は行っており、素晴らしいイベントが開催されたのは確かで、皆でどう解決するかを考えるのが良いコミュニティ形成に必要なだと私は考えます。

しばし休んで、来年は本件を糧により良いイベントが開催されることを願います。

早く気軽にイベントができる世の中になることを祈ります。